

尼崎市総合計画審議会 第3回市民・有識部会 議事録

日 時	令和7年7月16日（水）18:30～20:30
開催手法	対面およびオンラインの併用
出席委員	岩崎委員、大江部会長、重松委員、関（由）委員、原田委員、藤嶋委員、藤本委員、松原委員、潮委員
欠席委員	小森委員、大永委員、坂本委員
事務局	奥平政策部長、曾田都市政策課長、都市政策課職員

1. 開会

（部会長）

尼崎市総合計画審議会第3回市民・有識部会を始めます。事務局から出席委員と傍聴者の有無についてご報告をお願いします。

（事務局）

本日の出席委員は9名です。傍聴はございません。

（部会長）

まず議事録についてですが、前回同様、本日も2つのグループに分けて議論を進めていきたいと考えています。テーブルに分かれて議論する予定ですので、今回の議論の内容を議事要旨としてまとめ、事務局から全員にお送りいただき、各自内容の確認をいただきたいと思います。

ここからは、グループに分かれて議論いたしますので、進行役を事務局にお願いし、私も一委員として議論に加わらせていただきます。

それでは、審議の内容に入っていきたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

<事務局より資料説明>

【テーブルA】

【施策08 健康支援】

- ・ 受動喫煙対策の徹底が不足。飲食店での喫煙規制が緩く、せっかくの料理や空間の価値を損なうケースが多い。
- ・ 職場についても、喫煙場所の未分離や受動喫煙を防ぐ環境が十分にととのっていない状況があり、公共だけでなく、職場でも対策が必要。
- ・ がん検診率の向上が課題。がん検診は結果を聞く怖さがあり億劫になる。早期発見による成功体験を多く共有することで、心理的障壁を下げる工夫ができないか。
- ・ 会社として、受診率の補助や休暇制度などにより受けるきっかけを与えることも重要では。

- ・ マンモグラフィー・超音波、子宮頸がん・子宮体がんのようなセット受診が推奨される検査に対しての割引や補助制度があれば受診しやすい。
- ・ 健康経営の推進が重要。会社では高齢社員に対する人間ドック全額負担を導入した。忙しさ・育児・介護など多様な事情に配慮した柔軟な働き方と健康維持が求められる。
- ・ 生活習慣病の新潮流として、スマホ・IT 利用によるストレートネックや内斜視などの健康問題も若い世代で顕在化しつつあり、早期から生活改善や啓発が不可欠。
- ・ 高齢者やメンタル疾患のある方を孤独にさせないことが大切。コミュニティ参加などの促進が孤立対策や健康支援に資する。
- ・ こころとからだの健康のために、多世代食堂や食習慣に関するイベント、SNS を活用した健康アプローチが有効。
- ・ 定年後の働き方や、若いうちから年金の手続きなどの知識を得ておくことも重要。

【施策０９ 生活安全】

- ・ 数年前から比べると体感治安の改善傾向に着目。全国ニュースで尼崎ばかり流れている時期があった。
- ・ SNS や留守電を利用した詐欺手口の巧妙化が進み、デジタルリテラシー向上が必須となる。
- ・ 交通ルール・安全教育の徹底が求められる。自転車逆走や歩きスマホの横行は、規制や啓発が形骸化しており、罰則実効化・教育強化が不可欠。自転車・歩行者双方にルール順守への認識転換が急務。
- ・ 自動車の運転マナー（割り込みなど）が悪い、歩行者も横断歩道のないところの横断等が多い。
- ・ 自転車専用レーンはあるが道幅が狭く危険なところもある。
- ・ 自転車のイヤホンの罰則が必要ではないか。ノイズキャンセリングでイヤホンの機能が向上しており、運転していて自転車が急に曲がってくるなど危険な場面がある。
- ・ SNS での出会い等によるトラブル、怪しい英文のメールに対しても、AI 翻訳機能の普及による外国語への抵抗感の薄れが近年あるのでは。AI との相談ができるようになり、生身の人間に相談することが減る懸念。
- ・ 詐欺や犯罪の手法も日々変わってきている。かつてはオレオレ詐欺であったが、近年は住宅に押し入り強盗するなどもある。市として青パトによるパトロールを実施しているが、犯罪の手法は日々変化していくなかで、その対策の方法も柔軟に変えていく必要があるのでは。
- ・ 高齢者も若年者も孤立していると闇バイトに巻き込まれやすいのでは。地域コミュニティだけでなく、さまざまなコミュニティにおいて、孤立対策とパトロールの工夫などの予防の取組が有効では。
- ・ SNS 上のパトロールをやっている人もいる。犯罪につながるような投稿を見つける動きがある。
- ・ 防犯活動には警察のみならず、企業や市民が協働する仕組み拡充が必要。
- ・ 暴力団排除の取組は効果があり、かなり進んできたのでは。

【施策１０ 消防・防災】

- ・ 消防団員は実はそれほど要らないのでは。火災件数が減っており、年間数回程度の出動実績しか

ない。他の地域と合併を考えてもいいのでは。消防局からも他地域への出動はしなくてよいと言われている。

- ・ 実際は火災以外の対応が多い。防災活動で参加であればよいが、イベントの警備など、その他の対応も多い。消防団員だから対応しているが、若者にとってはそのようなことがネックになっているのでは。
- ・ 園田地域のような活発な消防団にするにはどうすればいいのか。このような事例がモデルケースとなって、横展開できればいいが。
- ・ 近年災害の質が変わってきている。火災が減ってきているが、一方で、集中豪雨は増えている。熱中症も同様に増えている。
- ・ 災害食のアレルギー等への配慮、相談体制のさらなる普及が必要。
- ・ 要配慮者の避難支援体制づくりとして、防災食に慣れる取組をやっている。災害時に口にするものを普段から食べてもらい、食べられるものを見つける取組。話すことが苦手な障害児などには、自分自身の状況を伝えることが出来るようなカードを作るなどの取組も行っている。
- ・ #7119 はほとんど認知されていないのでは。緊急時などの余裕がないときには#7119ではなく、119にかけて相談するという実態があるのでは。#7119をもっと人々の意識の中に普及させる必要がある。
- ・ 一人暮らしが多くなったことが、周囲に相談できないことから救急件数の増加につながっているのでは。
- ・ 会社でのボランティア活動で対価に見合った手当がでることがあるため、消防団員も対価をより明確にしてもよいのではないか。一方で、活動に見合った手当と言い出すと、民生委員や保護司などもあり、市の財政を圧迫する懸念もあるが。
- ・ 災害対応についても、市ですべて請け負うのではなく、市職員が被災している場合もあるため、外部の委託などを有効に使うことも大切。自治体間の支援も含めて。
- ・ 南武庫之荘中学が作った防災マップが秀逸

【施策11 地域経済・雇用就労／施策12 環境保全・創造】

- ・ 労働生産性の抜本的な向上が都市経済の課題。週休3日制の導入や副業の推進、ロボット等自動化導入で働き方と企業収益の最適化を図るべき。
- ・ 働き方改革への対応。システム化や事務の効率化により、無駄が排除を進めた。これらをすすめるなければ人の確保もままならない状況があった。
- ・ 多様な働き方や副業の広がりが就労支援策に不可欠。若者や高齢層の就労、障害者雇用や外国人材利用も視野に入れることが重要。
- ・ 近畿高エネルギー加工技術研究所（AMPI）の活用がまだまだされていないのではないか。これまではアンケートにより意見が多かった設備を導入し、必要な時に使わせてもらえる、まさにシェアリングエコノミーの取組がされていたが、周囲で活用したというのを聞いたことがない。使用頻度が低くもったいない。
- ・ GXの取組には経済的な負担がかかり、大企業ならできるかもしれないが、中小企業でこのような取組をやるにはかなり腹をくくってやっていく必要がある。

- ・ 食品ロスの観点で、最近冷凍の自販機を見かけるが、あのようなものをもっと普及させるとよいのでは。
- ・ 観光地域として、鹿児島中央駅の駅前のロータリーに観光案内スタッフがいて観光地を巡る案内をしてくれる。他地域から尼崎に来た人に、尼崎はこんなまちというのを伝えられる観光ルートやストーリーを伝えられるものがあるとよいのでは。
- ・ プラごみ対策について、市民の出すゴミや分別の状況がどうかという分析は必要では。
- ・ 食品ロスについて、子どものころから自分が食べられる量を考えて自分で調節するというのは、自分自身の健康に通じることでもあり大切ではないか。
- ・ ゼロカーボンと会社の負担は相反することで課題であるが、次の段階としてカーボンクレジットをどうやって普及させるかが大事では。中小企業でも脱炭素の取組をしたいと思っても、その方法が限られていて、やるにしても費用が掛かるという課題に直面している。
- ・ 障害者の雇用は、法定雇用率があるが、障害者だけでなく、女性管理職とか、高齢者の雇用なども義務づけるという考え方があってもよいのでは。
- ・ 観光の関係で、尼崎城と近くの寺町がいまいちリンクしていないのではないかな。せっかく立派な建物ができているので、城だけでなくあのエリア全体をもっと多くの人に来てもらえるようにできないか。
- ・ ISO140001の資格はとても環境の勉強になるため、みんなで勉強できる機会があればよいと思う。

【施策13 都市機能・住環境】

- ・ 公園は整備や清掃が行き届いているところとそうでないところがある。市だけで全ての公園を管理するのは負担が大きいため、町会など市民の協働参画も含めた管理ができるとよい。
- ・ 公園遊具やインフラの維持管理と老朽化対応が課題。
- ・ 八潮市の道路陥没事故後の市の緊急点検の対応は非常に迅速だったと感じる。
- ・ 老人福祉センターの老朽化などこれまでの1つの施策のための施設ではなく、様々な機能を持たせた施設が増えている。
- ・ ハード・ソフト両面での都市施策連携強化が必要。ハード施設の質向上とともに、市民生活の質や利用しやすさ向上に投資すべき。
- ・ 空き家活用や低家賃住宅確保、リノベーション推進が求められる。若者や外国人、被災者など多様な利用ニーズに対応、施策の柔軟化がカギ。使われないまま放置されているのではなく、工夫して活用していくことが重要。
- ・ まちなかへのミストシャワーを設置してほしい。都市部ではよく見かけるが。
- ・ 新築住宅はかなり高額であり、最近の若い世代は住宅を取得するのは困難だという話をよく聞く。空き家をリノベーションするなど低廉に住宅を提供できれば空き家活用にもなってよいのでは。
- ・ 交通の担い手不足解消に向け、バス・タクシーの柔軟運用やライドシェアなどのシェアリング導入に期待。一方でライドシェアは反対意見も多く不安要素もある。オンデマンドバスにも期待したい。
- ・ インフラの老朽化対策は、予算が膨大にかかるため、クラウドファンディング型資金調達も有効活用すべき。

- ・生活困窮者自立支援の中で住宅確保要配慮者への取組がまだ十分ではない。近年、住宅価格はあがっており、さらに住宅確保が難しい状況がある。
- ・死後の持ち家対応の強化が必要。死後の相続や手続きの支援について、国が市町村と社会福祉協議会で連携して進める方向性を打ち出している。これに対する対応を今後どのようにすすめていくのか課題になってくると思う。
- ・駅前リニューアル等で都市ブランド力アップが進みつつあり、さらなる魅力発信と民間連携を推進する必要がある。阪神尼崎の雰囲気は間違いなくよくなった。出屋敷はリベルがやはり寂しい、立地はいいのにもったいない。

【テーブルB】

【施策08 健康支援】

- ・最近、学生の喫煙が増えているのか、喫煙所が欲しいという声がある。男女問わず。学校の前のコンビニにも喫煙スペースが設置された。電子タバコになって身近になったのかもしれない。
- ・市が作成した「コロナ禍の振り返り」は次への備えとして、非常に良いと思う。
- ・喫煙マナーが良くなっている。ポイ捨てはあるが、駅付近、コンビニの周り、歩きタバコが減っていると感じる。
- ・バスを待っている間にずっと吸っている人もいなくなったように感じる。
- ・子どもがいるとタバコを離してくれるようなことも見かける。
- ・対策は進んでいるが、効果があるのか疑問。過料徴収なども見かけるが、タバコが生き甲斐の人もいるだろうし、喫煙者側が心配になる。
- ・健康に対する意識が高まっていると感じる。地域で意識を高めるイベントなどあればより進むのではないかな。周りで喫煙者が減ってきた印象。
- ・ゲートボールをしている高齢者、ウォーキングをしている人を見るが、そういったことができる情報や場所をうまく発信できれば健康な行動に誘導できるのではないかな。
- ・地域のお年寄りの見守りの状況はどうか。子ども向けに認知症の講座をして、徘徊などに対する理解を深めていく必要があるのでは。
- ・電気代の検針など、高齢者を見守るタイミングがこれまでにあったが、自動化されてその機会は失われた。置き配も同じでは。
- ・SNSによるメンタルヘルス、心の健康の悪化につながっているのではないかな。新しい課題。若年層のSNS禁止に踏み切った国もある。
- ・デジタルは進むと良いが、会う機会が減るなど課題もある。どちらも大事で両方必要。
- ・市報はデジタル化していないと感じる。コミュニケーションツールになるなど良い面もある。
- ・SNSだから愚痴が言える、という良い面もあると思う。

【施策09 生活安全】

- ・信号の矢印のタイプの青の時に、右折できないのに右折してしまう高齢者がいたりして、非常に危険。また、大きな道路で、制限より非常に低速で走っていて、逆に危険に感じる時もある。高齢者の運転の課題は今後拡大していく。

- ・ 自転車の乗り方が、自転車専用レーンができてわかりやすくなった。逆方向に走らないといけな
い時にわざわざ対向車線に回らなければならないなど、求められるルールが難しくなっている。
- ・ 阪急塚口駅南側ロータリーでは、「自転車は押して歩いてください」とあるが、降りずに乗って
いる。電動自転車も多く、危険を感じる。
- ・ JR 尼崎駅の地下道も押さずに乗っている。マナー啓発で誘導するのは難しいかもしれない。
- ・ 自転車が「一時停止」で止まらず、飛び出してくるのが危険に感じる。
- ・ 法律以前に、お互いの安全のために止まるべき。小中学生の自転車の運転が危険と感ずることも
ある。
- ・ 小学校で安全講習を受けたはずだが、覚えていない。
- ・ 自分も内容は記憶にない。スタントマンの演技だけが印象に残っている。
- ・ また、自転車マナーについて、駐輪場で 100 円取られるのが中高生には負担が大きい。負担が小
さければ駐輪マナーの向上につながるのでは工夫できないか。
- ・ 自転車が、車で、踏切で止まっていたら周りが自転車だらけになり、危険を感じる。
- ・ 尼崎で、ということではないが、SNS で巻き込まれ、都会でドラッグに接してしまうなどを聞く。
意外と身近なことであり、課題。著名な SNS では規制されるが、匿名性の高いアプリでやり取り
される。
- ・ 「在宅バイト」などで犯罪に巻き込まれていく。対策が必要。知っていればブロックできるが、
知識がないとリスクがあるかもしれない。
- ・ 小学校から情報倫理を伝えてほしい。
- ・ 闇バイトについては、デジタルネイティブである若者が引かかっている、それ以上の年代はあ
まり引かからないように思う。(中高年は SNS 等でのバイト探しという感覚がないのかも)

【施策 10 消防・防災】

- ・ 避難所の状況を見ていると、30 年前の阪神淡路と大きくは変わっていない印象。ダンボールの
仕切りくらいはできているが、今も体育館で集まって、となっている。
- ・ 海外では、テント形式でプライバシーが守られて、といった形になると聞いたことがある。
- ・ 風呂、トイレも変わっていない。生理中の女性などが入れない。
- ・ キャンプ道具などがあればプライバシーを維持して生活できる。
- ・ ソロキャンプをしている人などは災害時に役に立つグッズがあるという発信をしている人もい
る。
- ・ 子どもが小さい時からそういった活動をしていると、災害時にも子どもがどうすれば良いかがわ
かる。トイレに行くには照明が必要、といったことも自然にわかる。
- ・ 早い頃から体験させていくことで、災害への対応力を高められるかもしれない。
- ・ また、救急車の適正利用のポスターなど、周知のための掲示が不十分な印象。適正利用が増えて
いるかはわからないが、広報が重要では。
- ・ 一方で、利用控えも気になる。罰金制は賛成しない。自分で病院に行けないくらいなら使う、と
いったところが判断基準と考える。バスに乗って行けるなどであれば自分で行くのが良いのでは。

- ・ 大学生は避難訓練がない。
- ・ 一限に実施などするので、その時間に授業を受けている生徒と、寮生のみになる。
- ・ かまどベンチなど、普段から災害時に活用するものを体験する機会があれば。
- ・ 尼崎市は消防士の Instagram が人で、自分も見た。入り口は興味本位であっても、そこから防災情報に触れることになるので良いのでは。
- ・ 伊丹市に住んでいた頃、防災士を取得したら、その名簿に記載され、ネットワークの一員になる。尼崎市でもそうした活動があるので活用してほしい。
- ・ 紙で事務処理をしている場面をよく見かけるが、災害時に紙の印刷ができるのか。電子化の必要はないか。
- ・ 消防団が減っている。大人になってから入るのはハードルが高いので、子ども時代から接する機会が必要ではないか。
- ・ 外国人が増えている。ピクトグラムなど、日本語がわからなくても災害時に避難できる仕組みがあれば。
- ・ 関心を持ってもらえるような、興味を惹くような防災教育を行って、子どもたちにも関心を持ってもらう必要がある。

【施策 1 1 地域経済・雇用就労／施策 1 2 環境保全・創造】

- ・ キャンプができる場所を作ってはどうか。
- ・ お土産が買える場所が少ない。阪神尼崎駅前の観光案内所に行く必要がある。どこの駅前でも買えれば買う機会が増えるし、イメージの発信にもなる。
- ・ お城でも中に入らないと売っていない。
- ・ 東急ハンズで一時的に売っていた。もっと常設で、気軽に買える場所があれば。
- ・ 新大阪が近いのに尼崎のものは売っていないので、大阪土産を買うことになってしまう。
- ・ 伊丹の公園は花が咲いていて利用しやすい。集まる場所がなく、ボーリングしか選択肢がない。三木や三田に行くことになる。企業もたくさんあるのに、企業が使えるような場所がない。
- ・ 観光のコンテンツが少ないが、掘り出せばあるはず。
- ・ 近隣市で日本遺産に登録しているが、清酒メーカーがないので、菰樽だけ。
- ・ とりあえずいけば何かやっている、という場所があれば。尼崎城の周りでもカレー屋やハンバーガー屋などが出店している。キッチンカーなどのお店がたくさんあるのは魅力。
- ・ 尼崎では土地が高いからか、駐車場がある飲食店が少なく、車だとチェーン店になる。
- ・ 尼崎の地場産業のイメージがよくわからない。工場はたくさんあるが、何を作っているか知らない。
- ・ 電車内からもよく見かけるが中はわからない。
- ・ 鉄鋼やプロペラ、車輪など。消費者向けではなく、身近ではないかもしれない。
- ・ 工場見学ができる場所もある。そういう機会があれば身近になるかもしれない。
- ・ いろんな企業で、体験すると面白い業務もある。そういった体験機会があれば関心も深まるのでは。
- ・ 学校などにつながれば興味を持ってもらえて、将来プラスになるかもしれない。

- ・ 木育としてスケボーを実施した。環境を身近に感じる機会だった。
- ・ 尼崎市は緑があるとは感じるが、森や山がない。

【施策１３ 都市機能・住環境】

- ・ シェアサイクルが設置されているが、住宅街の公園にポツンと置いてあって、ニーズがあるかどうか。
- ・ 市内の観光地を巡るバスはないか。あれば観光客の掘り起こしになるのでは。観光スポットはあるが、それぞれが繋がっておらず、アクセスできない。
- ・ 公共空間に「屋根」や「椅子」があるとニーズがあるのでは。時間帯によって使う人が変わっていくようなものがあると良い。
- ・ 出屋敷駅前を整備されたが、屋根がなく、お店はあるが食べる場所がない。
- ・ ユースセンターを案内する機会があるが、園田から阪神尼崎に行くアクセスが悪い。タテ、ナナメの移動手段がない。
- ・ バスを乗り継がないといけない場所があるので、金銭的な負担も大きい。
- ・ 駅前が綺麗になっていっているが、尼崎らしい風情が失われて寂しいという気持ちもある。雑然とした雰囲気も大事にしたい。
- ・ 市民が花を植えているところをよく見る。一方で、公園など、手入れが行き届いていない。
- ・ 空き家をコミュニティスペースに改修している方がいて、面白い取り組みだと思う。
- ・ 三田などでは、空き家や空きスペースを貸している。海外だと番号キーで入れるようにしていて、家を貸すなどもしている。学校の空きスペースなども活用できないか。
- ・ 尼崎に、若者が宿泊できる場所がない。

以 上